大空（生徒・保護者向け）１３号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校　校長通信

令和2年7月15日（水）

なぜ探究的な学習をするのか？（「きみろん」報告発表会挨拶）

□本日の概要

○探究的な学習は、「疑問を持つ力」「問いを立てる力」を育てる。

○悪とは、疑問を持たずにシステムを無批判に受け入れることである。身の回りのものを自分の視点で見つめ直そう。（批判的思考力の育成）

○「分かった」という気持ちは探究心を阻害する。敢えて頭の悪い人になり、探究心を持ち続けて欲しい。

□「きみろん」は何のため？

皆さん、おはようございます。いよいよ、「君にしか書けない論文」、略して「きみろん」の報告発表会です。今年は、新型コロナウイルスの影響で、このように一同に会しての発表会は開催できないのではないかと心配していましたが、参加人数や発表方法に制限しながら、何とか開催することができました。開催のために尽力してきた実行委員会や先生方に感謝を申し上げます。

さて、突然ですが、私はＮＨＫの「チコちゃんに叱られる」という番組が好きでよく見るのですが、今こそ、ここにいるすべての生徒に問います。皆さんは、なぜ、このような課題研究や、探究活動に取り組んでいるのでしょうか？

探究活動の意味も考えず、「７月１５日には発表会があるからポスターを作れと先生に言われた」とか、「宿題だから仕方なかった」とか、何の疑問を持たずに、探究活動に取り組んだりしていて、「ボーッと生きてるんじゃねーよ」と怒られるような人はここにはいませんよね？

皆さんの取り組んだ探究活動は、順調に取り組めた時もあったでしょうが、どこから取り組めばいいのか分からず途方に暮れたり、答えが出ずに行き詰まり投げ出したくなったり、様々な苦労もあったのではないでしょうか。答えを手っ取り早く教えてもらう方が早いのに、なぜ、こんなに時間と手間をかけるのでしょうか。

□問いを立てる力を育てる探究活動

もちろん、ここに集まっている皆さんは、このちょっと面倒な探究学習が、ただ知識だけを覚える学習と違って、何か大切な力を育てているということに気付いていると思います。

探究活動で身につく力は様々ですが、私は、探究活動は、「疑問を持つ力」「問いを立てる力」を育ててくれると考えています。

外資系のコンサルタント業界で活躍している山口周（やまぐちしゅう）さんという人がいます。山口さんは「悪とは、システムを無批判に受け入れること」だと言っています。

「無批判に受け入れる」というのは、何の疑問も持たないことです。逆に、「批判する」というのは、否定ではありません。批判とは、定説とされてきたアイデアやシステムなどに対して、「果たして本当にそうだろうか？」と、自分なりに考え直してみることです。

皆さんの研究は、答えが出ていなかったり、考察が不十分なものもあるかもしれません。一生懸命考えた、でも分からなかったというものがあるかもしれません。しかし、身の回りのものを、自分の視点で改めて見つめ直し、新たな疑問を見つけたことが大切なのです。

□頭の悪い人になる意味

逆説的ですが、「分かった」という気持ちを持った瞬間、人間は分かろうとすることをやめてしまいます。人間が学び続けるのは、あることが「分かった」時、次の分からなさが見えてくるからです。つまり疑問を持ち続けることが人間の原動力なのです。

ここに集っている皆さんは、単なる物知りになって欲しくはありません。敢えて、「頭の悪い」人になり、疑問を持ち続けて欲しいと思います。変に物わかりの良い大人になるのではなく、探究活動の原点である、「分からない、不思議だ、なぜだろう」という疑問や好奇心を大切にする、永遠の子供でいてください。それでは、皆さんの発表を楽しみにしています。頑張ってください。